



内部監査入門

日本金融監査協会 (http://www.ifra.jp/) 編

- 第1章 内部監査の基礎知識
- 第2章 リスクベース監査の実務
- 第3章 リスク管理態勢の監査ポイント
- 第4章 コンプライアンス態勢の監査ポイント
- 第5章 システム監査のポイント



執筆者代表 碓井 茂樹
(日本銀行企画役、FFR +代表)

近年の国際金融危機の経験は、金融機関のリスクガバナンスの強化・見直しを迫るものでした。内部監査部門には、リスクベース監査の実践により、リスクガバナンス上の問題点を指摘するだけでなく、その改善を促すことが強く求められるようになりました。今や、プロフェッションとしての自覚とリスクガバナンスを評価できる専門的能力を身に付けた内部監査人の育成が急務となっています。

2011年3月、わが国の金融界の有識者、実務家約60名が集まり、内部監査人の育成を支援する専門的組織を作る必要があるとの共通認識が示され、「日本金融監査協会」が設立されました。

営利を目的としない「日本金融監査協会」の活動は、金融界の有識者、実務家の方々の協力・支援を得て、順調に拡大していきました。「日本金融監査協会」では、内部監査人の育成に役立つ研修セミナーを、年間20回以上、企画・開催するようになっています。

「日本金融監査協会」では、各分野の第一線で活躍している専門家、実務家を講師として招き、良質な研修セミナーを実費相当の価格で提供していることから、年々、個人会員、賛助企業・団体の登録が増えています。

また、「日本金融監査協会」の研修セミナーは、基礎理論と実践事例のバランスがとれており、その質の高さには定評があります。初心者にも分かりやすく、経験者には内部監査の実務を考えるうえでのヒントが得られることから、毎回、研修セミナーには、全国の金融機関から多くの受講者が集まっています。

ただ、日常の業務が多忙で、研修セミナーを受講できない内部監査人も少なくありません。また、研修セミナーを受講しても、もう1度、よく復習して内容の理解を深めたいというニーズも寄せられました。こうした要望を受けて、「日本金融監査協会」主催の研修セミナーの講師4名が、それぞれの講義内容をもとに本書を著しました。

本書を執筆するに当たり、講師4名は事前に集まり、「内部監査の実践的テキスト」として活用してもらうことを前提にして、

本書の内容・構成をどうすべきかを話し合いました。

本書では、まず、はじめに、国際的な内部監査基準や金融検査マニュアルを踏まえ、内部監査に関する重要事項を丁寧に整理・詳解することにしました。とくに、リスクの視点で、内部監査の実践ポイントを分かりやすく解説するように心がけました。リスクベース監査という言葉は広く知られるようになりましたが、まだ、リスクベース監査の理解と実践については、必ずしも十分とは言えません。

内部監査の計画・実施・報告・フォローアップという各段階において、すべての内部監査実務をリスクの視点で組み立て直すことの重要性を強調することにしました。また、このとき、金融機関の実践事例についても、可能な範囲で紹介しながら、「レベル感」「手触り感」をもって内部監査の実務に取り組んでもらえるように配慮した積もりです。

さらに、内部監査人の専門的能力を高めるための各論も用意しました。具体的には、リスク管理態勢の監査ポイント、コンプライアンス態勢の監査ポイント、システム監査のポイントに関する解説を行う章を設けました。とくに金融機関の場合、本分野に関して十分な知識がなければ、自信をもって内部監査に取り組むことができないからです。

わが国の多くの金融機関では、内部監査部門にも人事ローテーションがあり、経営改善を促す内部監査人を育成するとはいつても、1～2年程度の時間的余裕しか与えられないのが現実です。その意味では、内部監査人ほど、効果的な研修セミナーの受講や標準的テキストによる自習が必要となる職種はないのではないかと思います。

本書が内部監査人の良きガイドとなり、価値ある内部監査を実践するうえでの一助となれば幸いです。

(執筆 碓井 茂樹、伊佐地 立典、行方 洋一、福島 雅宏、金融財政事情研究会刊)